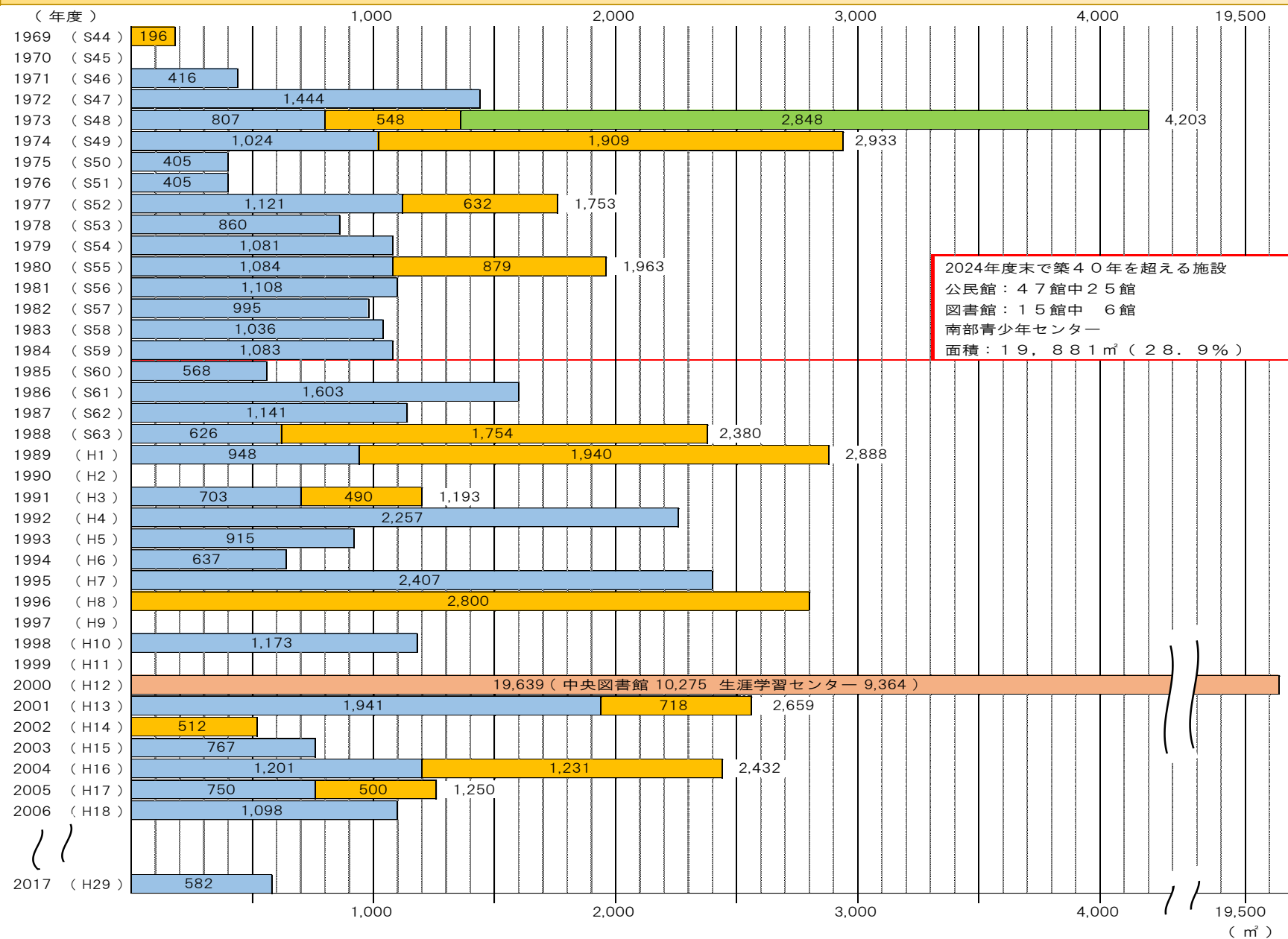


千葉市社会教育施設 保全計画（方向性）について

1 社会教育施設の整備状況



- ・ 公民館は昭和24年以降、図書館は昭和45年以降、順次整備
- ・ 千葉市の社会教育施設は公民館47館、図書館15館、生涯学習センター及び南部青少年センターの64施設
- ・ 現在、社会教育施設全体の延床面積68,784㎡の内、28.9%にあたる19,881㎡が令和6年度末で、築40年を経過

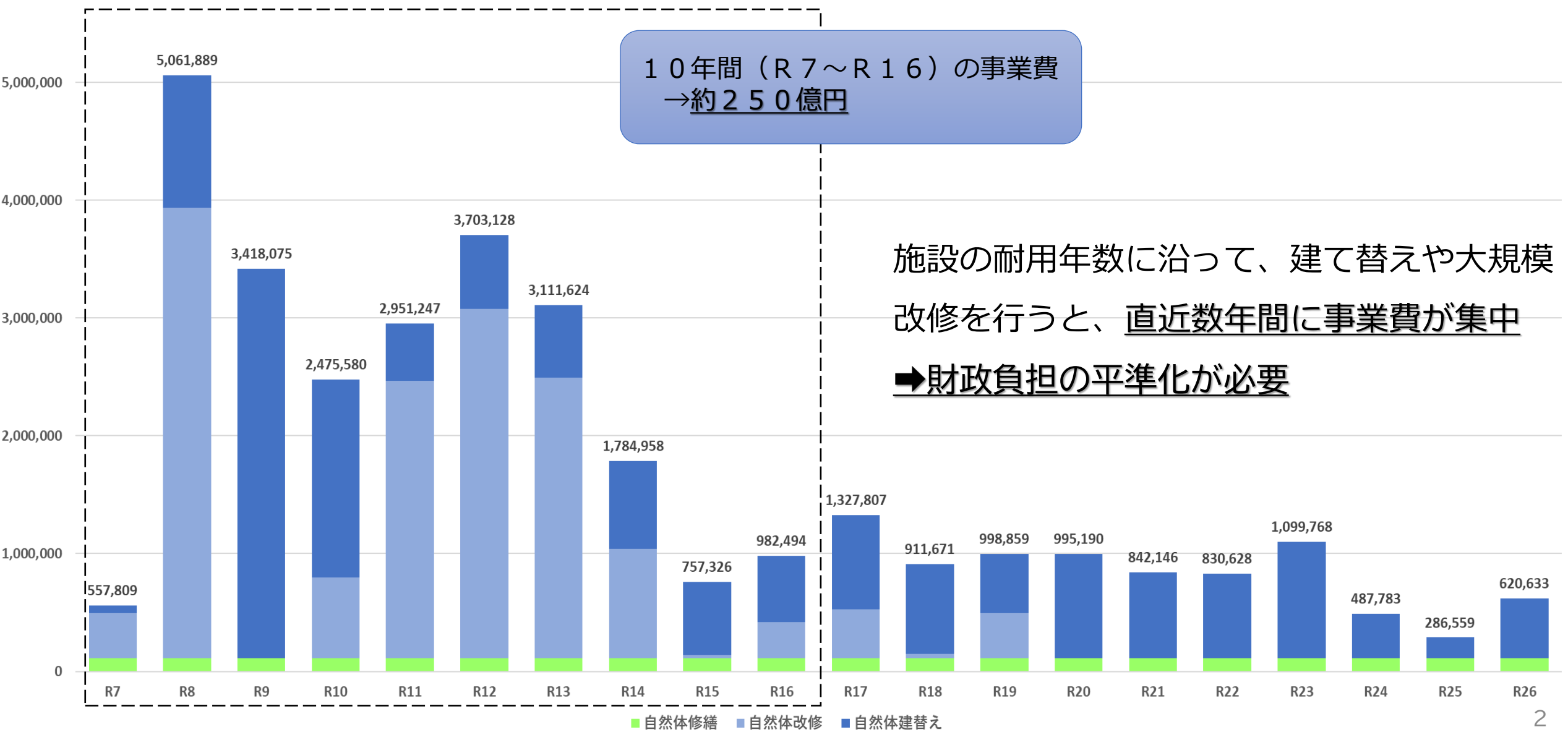
➡老朽化対策が課題

公民館 図書館 青少年センター 中央図書館、生涯学習センター

※2017 (H29) 年度は、リースで犢橋公民館を建替え実施

2 計画策定にあたって (1) 事業費の推計

社会教育施設保全計画（自然体での試算） 単位：千円



2 計画策定にあたって (2) 資産経営の基本的な考え方

(千葉市資産経営基本方針・抜粋)

1 資産の効率的な利用

- ・現状と将来の市民ニーズの変化の見通しを的確に踏まえつつ、施設と機能（公共施設等において提供している市民サービス）を明確に分離して整理し、**施設重視の考え方から機能優先へ考え方を転換**することで、資産の効率的な利用を進めます。

2 資産総量の縮減

- ・将来の人口減少に伴い、今後、施設ニーズの総量が減少に転じる見通しであることから、効率的な利用を図ったうえで余剰となる施設や必要性の低い施設については、解体・撤去や処分（売却等）などを行い、**資産総量の縮減**を進めます。
- ・**施設の新規整備（新設などの量的拡大を伴うもの）**については、既存施設の有効活用や民間施設の活用を図るなどにより、**原則として行わない**こととします。

3 計画的な保全による施設の長寿命化

- ・効率的な利用を図ったうえで、引き続き活用する資産については、施設全体に関する財政負担を中長期的な視点から縮減するため、**計画的な保全を推進し、施設の長寿命化**を進めます。
- ・老朽化対策や、耐震・ユニバーサルデザイン・環境などの機能改善を適切に行うほか、適切な維持管理に基づく取り組みを推進するとともに、**維持管理コストの縮減**を図ります。

➡近隣公共施設等との複合化や集約化等による施設規模のコンパクト化検討が必要

➡再整備にあたっては耐震・ユニバーサルデザイン・環境などの機能改善のほか、維持管理コスト縮減の観点に留意が必要

2 計画策定にあたって (3) 計画概要

(1) 対象施設

千葉市公共施設等総合管理計画において「社会教育施設」に区分されている公民館 4 7 館、図書館 1 5 館及び生涯学習センター 1 施設

(2) 計画期間

令和 7 (2 0 2 5) 年度～令和 1 6 (2 0 3 4) 年度までの 1 0 年間

(3) 再整備方針

- ・ 近隣公共施設等との複合化・集約化や、既存施設の維持を見据えた大規模改修等により、施設規模をコンパクト化しつつ、特定の時期に財政支出が偏らないよう配慮しながら建物劣化度調査の結果に応じて再整備する。
- ・ 再整備までの間、必要な修繕を行い、施設の安全面に配慮する。

3 公民館、図書館の目指すべき姿

公 民 館

【将来像】新しい時代の市民の学びを支え、生活や地域社会に活かし、多様な主体と連携・協働を図ることで、持続可能な社会を形成できる環境をつくるための拠点

【方向性】

- ・ 原則 1 中学校区に 1 館を維持
- ・ ソフト面の弾力化と施設の強靱化による公民館活動の振興と充実
- ・ 公民館を地域の拠点としたコミュニティづくりの再構築
- ・ 避難所機能の維持・強化



～公民館の機能強化～

- ・ 地域拠点としての役割
- ・ 防災拠点としての役割

図 書 館

【将来像】知の循環をつくり、未来へつなぐ知を生み出す「知の拠点」

【方向性】

- ・ 中央図書館の機能強化及び地区図書館・地区図書館分館の再整備
- ・ 利用状況に応じた施設のコンパクト化や他施設との複合化の検討
- ・ ICTを活用した利便性の高いサービスの導入



～図書館の機能強化～

中央図書館

- ・ 未来へつなぐ「知」に関する情報センター

地区図書館

- ・ 地域の活動を支える情報センター

地区図書館分館

- ・ 市民の読書活動を支える身近な拠点

4 公民館の機能強化

(1) 現状と問題点

ア 利用実態

- ・現状の公民館は、サークル活動がメインで、カルチャーセンター化している。
 - コミュニティセンターとの差別化ができていない。
- ・ **稼働率 50%未満が 47館中 25館**（40%未満は8館）※詳細は別紙参照
 - 公民館が地域にとって必要な施設になっていない。

(2) 今後の取組み

ア 地域拠点としての役割の強化

- ・ こどもから高齢者まで多世代に渡る利用を促進することで地域の拠点化を図る。
 - 現在、公民館で実施している好事例を見える化し、各公民館に波及させる。

<事例>

地域食堂の実施 [宮崎公民館]

近隣中学校茶道部による発表 [幕張公民館]

5 図書館の機能強化

(1) 現状と問題点

ア 利用実態

- ・ 図書館資料の利用回転率 **約1.8冊／年**（R4年度）

→ 施設の有効利用の観点から、有益な市民サービスを提供する場への転換が必要

- ・ 読書習慣のある児童生徒の割合

46.4%（小3）, 41.1%（小5）, 39.9%（中2）／ 1週間に1時間以上の割合(R4年度)

（不読率は低いものの、年齢があがるにつれて読書しなくなる傾向が見られる）

→ より一層の子どもが利用しやすい読書環境づくり等が必要

- ・ ICT化

情報端末の設置などの情報通信環境の整備は、他の政令指定都市から遅れ

→ 時代に合った情報環境を検討の上、利用者への提供が必要

5 図書館の機能強化

(2) 今後の取組み

ア 中央図書館の機能強化

→ ・ 地域情報館的サービスの提供

(知の交流を促すイベント（ワークショップ等）の開催)

・ 図書資料等の保存・物流機能の一元化

・ ミーティングルームなどの市民が学び、交流できる空間の整備等



一体的な検討

イ 地区図書館・地区図書館分館の再整備

→ ・ 地区図書館：特定分野の専門的な資料を揃え、専門的サービスを提供

・ 地区図書館分館：子どもや親子がくつろぎながら読書に親しめるスペースの設置等の推進

ウ ICTを活用した利便性の高いサービスの導入

→ サービスの自動化やデジタル情報を利用できる環境の整備

・ ICタグ、自動貸出機や自動返却機の導入

・ 情報端末の設置